

令和4(2022)年度科学研究費助成事業(学術変革領域研究(A)(公募研究))募集のご案内

標記の件について、文部科学省より通知がありましたのでご案内いたします。学術変革領域研究(A)は、「新学術領域研究(研究領域提案型)」を発展的に見直し、2020年度に創設された種目となり、今回の募集については学術変革領域研究(A)の公募研究の研究課題となります。応募を希望される方は、必ず、公募要領をご確認のうえ、2021年12月17日(金)までに、リサーチ・イニシアティブセンターまでご連絡ください。

I. 研究種目の概要と応募資格

学術変革領域研究(A)

対象	別表1で示す16研究領域(令和3(2021)年度開始)に係る公募研究の研究課題。
応募金額	別表1で示す16研究領域ごとの金額
研究期間	2年間(左記以外の研究期間の応募は審査に付されない)
採択予定件数	別表1で示す16研究領域ごとの件数
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・研究分担者を置くことはできない(ただし、必要に応じて研究協力者を研究に参画させることは可能) ・研究領域ごとの専門委員会(領域外の研究者を含め構成する予定)において、各評価者が2段階にわたり書面審査を行う。合議審査は行わない。 ・「学術変革領域研究(A)」の研究領域の詳細については、以下の「【参考】新規の研究領域について」に記載。応募に当たって参考とすること。
応募資格	<p>下記の「本学の科研費有資格職種」を参照し、応募資格の有無をご確認下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 本学の科研費有資格職種 </div> <p>教授、准教授、講師、チャプレン、カウンセラー、特任教授、特任准教授、助教、教育講師、キャリア支援コーディネーター、PD、教育研究コーディネーター、名誉教授、特定課題研究員、日本学術振興会・特別研究員(SPD、PD、RPD、CPD)</p> <p>※ <u>下記①～⑤に該当する方が申請する場合は、個別に応募要件を確認させていただきます。</u>また、場合によっては、応募を受け付けられない場合もありますので、その旨お含みおき下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 任期付職種や定年退職予定者の方で、応募する研究期間中に応募資格の喪失などの理由により、研究代表者・研究分担者としての責任を果たせなくなるが見込まれる方 ② 科研費被雇用者の方 ③ PD、教育研究コーディネーター、助教Rのいずれかの職種の方 ④ 特定課題研究員の方 ⑤ 日本学術振興会・特別研究員(SPD,PD,RPD,CPD)の方

【参考】新規の研究領域について((令和4(2022)年度科学研究費助成事業—科研費—公募要領(学術変革領域研究(A・B)、新学術領域研究、特別研究促進費)より抜粋))

目的	多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究。
対象	<p>学問分野に新たな変革や転換をもたらし、既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指す研究領域、又は当該学問分野の強い先端的な部分の発展・飛躍的な展開を目指す研究領域であって、多様な研究グループによる有機的な連携の下に、新たな視点や手法による共同研究等の推進により、革新的・独創的な学術研究の発展が期待されるもので、次の1)～3)の全ての要件及び該当する場合は4)の要件を満たすもの。</p> <p>1) 基礎的研究(基礎から応用への展開を目指すものを含む。)であって、複数の分野にまたがる研究領域</p>

	<p>の創成や革新的な学術研究の発展が期待されるもの。</p> <p>2) 「(i)国際的な優位性を有する(期待される)もの」、又は「(ii)我が国固有の分野若しくは国内外に例を見ない独創性・新規性を有する(期待される)もの」。</p> <p>3) 研究期間終了後に、個々の研究課題について十分な成果が期待されるとともに、これまでの学術分野の概念や方法論を変革することなどが研究領域の成果として十分に期待されるもの。</p> <p>4) 過去に「新学術領域研究(研究領域提案型)」又は他の研究費制度において採択された研究領域を更に発展させる提案については、当該研究費で期待された成果が十分に得られており、それまでの成果を踏まえ、更に強い先端的な部分の発展・飛躍的な展開を図る内容となっているもの。</p>
応募金額	1 研究領域の応募金額は、単年度当たり 5,000 万円以上 3 億円まで。 なお、真に必要な場合には、1 研究領域の応募金額の上限を超える応募も可能。
研究期間	5 年間(左記以外の研究期間の応募は審査に付されない)
採択予定領域数	18 研究領域程度
研究領域の構成	<p>(基準を満たしていない応募研究領域は審査に付されない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究領域は、「計画研究」及び「公募研究」により構成してください。 「計画研究」は、「総括班」と「総括班以外の計画研究」により構成されます。 「総括班」を必ず一つ設けてください。また、「総括班以外の計画研究」及び「公募研究」をそれぞれ相当数設けてください。 「総括班」は、主に研究領域全体のマネジメントを実施するための組織です。研究の実施を目的とする計画は認めません。 次代の学術の担い手となる研究者(令和 4(2022)年 4 月 1 日現在で 45 歳以下の研究者)を研究代表者とする「総括班以外の計画研究」が 2 課題以上含まれる領域構成としてください。 研究期間の途中から計画研究を追加することを想定した計画は認めません。 「公募研究」は、研究期間は 2 年間(領域設定期間の 2～3 年目及び 4～5 年目)とし、領域設定期間の 1 年目に令和 5(2023)～令和 6(2024)年度分、3 年目に令和 7(2025)～令和 8(2026)年度分の公募を行い、次の最低基準のいずれかを上回るよう設定してください。その際、最低基準を上回るにとどまらず、学術変革領域研究(A)の目的及び当該研究領域の特性を踏まえ、当該研究領域の研究の幅広い発展を目指す上で必要な件数及び必要な金額とするよう努めてください。 <p>○1 年目と 3 年目それぞれの採択目安件数が 15 件を上回ること</p> <p>○公募研究に係る経費の総額(令和 5(2023)～令和 8(2026)年度の合計)が研究領域全体の研究経費(5 年総額)の 15%を上回ること</p>

II. 応募方法

リサーチ・イニシアティブセンターから学内申請手続きに関して、説明を受けたのち、**2022 年 1 月 11 日(火) 9 時**までに、学内申請手続きを完了してください。

III. 応募から交付までのスケジュール(予定)

日程	内容
2021 年 11 月 24 日(水)	公募発表
12 月 3 日(金)	学内募集のご案内
12 月 17 日(金)	申請希望のリサーチ・イニシアティブセンターへの連絡期限
2022 年 1 月 11 日(火) 9 時	学内申請締切 1 月 11 日(火) 9 時【厳守】
1 月 28 日(金) 16 時 30 分	日本学術振興会への申請書提出期限

2 月～5 月 審査 6 月下旬 交付内定

本件に関するお問合せ先

リサーチ・イニシアティブセンター(科研費申請担当)

【池袋キャンパス(12 号館 2 階)】

内線: 3833 E-Mail: kaken-shinsei@rikkyo.ac.jp

以上

別表1 学術変革領域研究(A)のうち「公募研究」を募集する研究領域一覧(16研究領域)

注)各研究領域の公募研究の内容については、「別表2 学術変革領域研究(A)の公募研究の内容」(18頁～33頁)を確認してください。

番号	領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間	公募研究の期間	件数(程度)	単年度当たりの応募金額(1年間)	内容の頁
1	21A101	「当事者化」人間行動科学:相互作用する個体脳と世界の法則性と物語性の理解	当事者化行動科学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	5 10	520万円以内 300万円以内	18
2	21A102	ゆらぎの場としての水循環システムの動的解明による水共生学の創生	水共生学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	5 11	400万円以内 150万円以内	19
3	21A201	極限宇宙の物理法則を創る—量子情報で拓く時空と物質の新しいパラダイム	極限宇宙	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	3 7 17	500万円以内 300万円以内 100万円以内	20
4	21A202	超温度場材料創成学:巨大ポテンシャル勾配による原子配列制御が拓くネオ3Dプリント	超温度場3DP	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	16	350万円以内	21
5	21A203	Slow-to-Fast地震学	SF地震学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	9 10	400万円以内 200万円以内	22
6	21A204	デジタル化による高度精密有機合成の新展開	デジタル有機合成	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	24 7	350万円以内 300万円以内	23
7	21A205	生物を凌駕する無細胞分子システムのボトムアップ構築学	超越分子システム	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	25	400万円以内	24
8	21A206	2.5次元物質科学:社会変革に向けた物質科学のパラダイムシフト	2.5次元物質	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	4 13 4	500万円以内 300万円以内 150万円以内	25
9	21A301	神経回路センサスに基づく適応機能の構築と遷移バイオメカニズム	適応回路センサス	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	4 4 10 3	600万円以内 500万円以内 400万円以内 200万円以内	26
10	21A302	クロススケール新生物学	クロス生物学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	15	400万円以内	27
11	21A303	新興硫黄生物学が拓く生命原理変革	硫黄生物学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	5 15	300万円以内 200万円以内	28
12	21A304	非ドメイン型バイオポリマーの生物学:生物の柔軟な機能獲得戦略	非ドメイン生物学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	18	400万円以内	29
13	21A305	競合的コミュニケーションから迫る多細胞生命システムの自律性	多細胞生命自律性	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	16	450万円以内	30
14	21A401	サイバー・フィジカル空間を融合した階層的生物ナビゲーション	階層的生物ナビ学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	20	300万円以内	31
15	21A402	ジオラマ環境で覚醒する原生知能を定式化する細胞行動力学	ジオラマ行動力学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	24 10	220万円以内 190万円以内	32
16	21A403	デジタルバイオスフェア:地球環境を守るための統合生物圏科学	統合生物圏科学	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度	2年間	3 8 12	800万円以内 400万円以内 200万円以内	33